

(5) 東海



東海地域では、景気は東日本大震災の影響が残るものの、持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は東日本大震災の影響が残るものの、持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

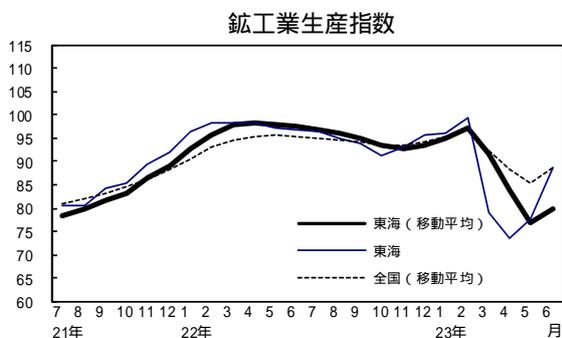
前回調査からの主要変更点

	今回(平成23年5月)	今回(平成23年8月)	
景況判断	東日本大震災の影響により、弱まっている	東日本大震災の影響が残るものの、持ち直し	
鉱工業生産	東日本大震災の影響により、大幅に減少	東日本大震災の影響が残るものの、持ち直し	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直しの動き	
住宅建設	おおむね横ばい	減少	
雇用情勢	東日本大震災の影響により、弱含み	持ち直しの動き	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は東日本大震災の影響が残るものの、持ち直している。

輸送機械は、乗用車や自動車部品が、サプライチェーンの立て直しが進み稼働率が上昇するなど、足元では増加している。一般機械は、金属工作機械で海外向けが堅調、国内向け需要も下支えとなり増加している。一方、電子部品・デバイスは、東日本大震災の影響や価格下落の影響などから減少している。プラスチック製品は、工業用製品の悪化を主因に減少したが、足元では自動車向けなどで増加している。化学は、プラスチックの悪化を主因に減少したが、足元では持ち直している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
輸送機械	37.5	6.5	25.5	30.5	83.4
一般機械	12.7	7.9	6.3	5.2	16.2
電子部品・デバイス	6.8	1.7	16.9	12.5	11.5
プラスチック製品	5.4	0.1	8.0	10.6	2.0
化学	5.0	4.1	3.2	5.2	9.7
鉱工業	100.0	1.9	12.7	13.2	5.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

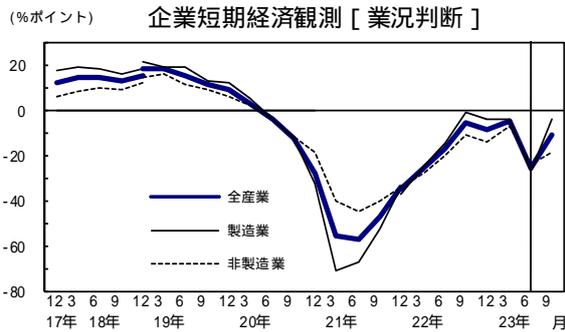
2. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。

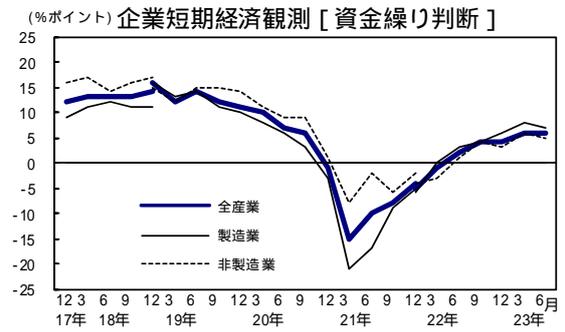
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

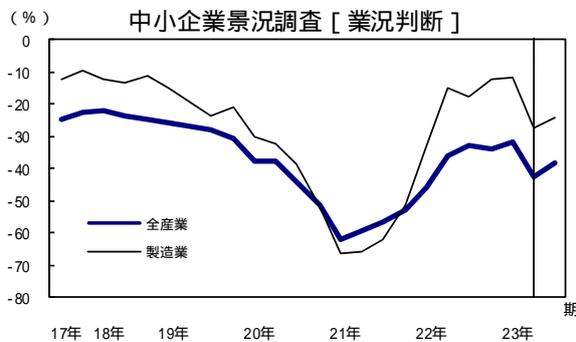
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年9月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「北米、アジアの自動車業界から、設備投資の引き合いや受注が増えている。しかし、円高のために価格を下げざるをえないため、売上は前月と変わっていない(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

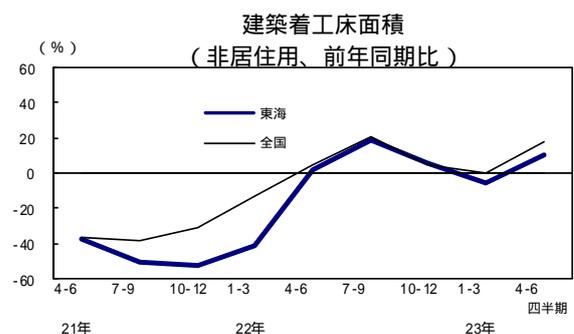
(3) 23年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	3.1(7.5)	8.9(4.2)
製造業	2.5(8.6)	13.3(6.0)
非製造業	3.6(6.5)	5.2(2.7)

(備考) 1.()は前回(3月)調査結果。

2. 22年度以降は、計画はリース会計対応ベース。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で1.3%減、前期比で0.9%減となった。

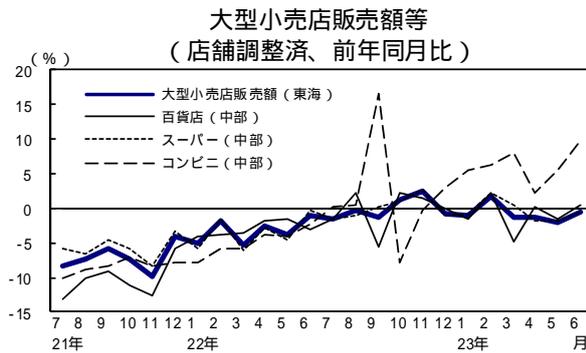
百貨店は、4月は、気温上昇で春物衣料が好調に推移し、前年を上回った。5月は、夏物衣料が堅調な一方、前年より早い梅雨入りや台風の影響で入店客数が減少し、前年を下回った。

6月は、節電意識の高まりや下旬の記録的な猛暑により夏物衣料や涼感寝具などが堅調に推移するなど、前年を上回った。

スーパーは、扇風機などの季節商材が好調だった一方、東日本大震災後に需要が拡大した飲食品の反動減などから前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

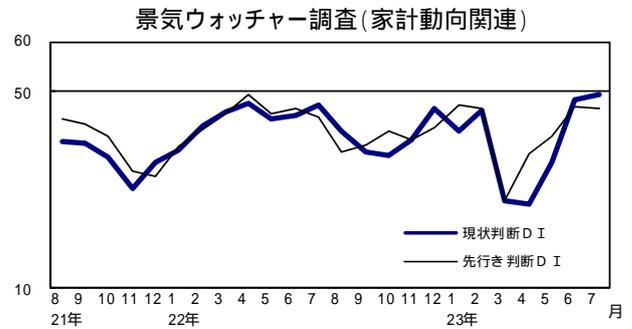
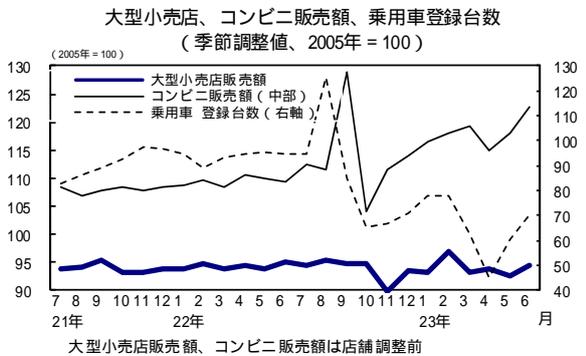
「夏物衣料や洋品雑貨は、順調に推移している。ただし、中元商戦の状況が悪い(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	22年7-9月	10-12月	23年1-3月	4-6月
大型小売店(*1)	1.1	0.8	0.2	1.3
百貨店(*1)	1.7	1.0	1.6	0.3
スーパー(*1)	0.7	0.8	0.5	1.4
大型小売店(*2)	0.4	0.5	0.5	1.5
(季節調整値)(*3)	(0.5)	(2.3)	(1.9)	(0.9)
乗用車(*4)	14.8	29.1	22.9	36.9
(季節調整値)(*4)	(6.9)	(33.3)	(7.6)	(19.4)

(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)、百貨店、スーパーは中部
2. 店舗調整前、前年同期比(%)
3. 店舗調整前、前期比(%)
4. 乗用車は新規登録・届出台数

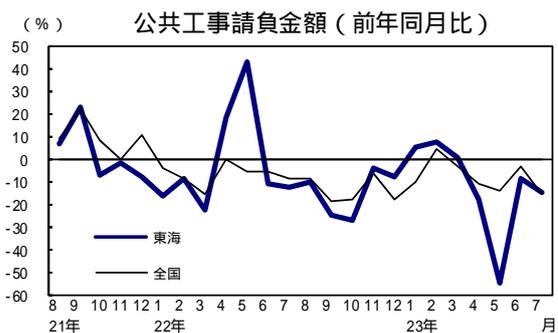
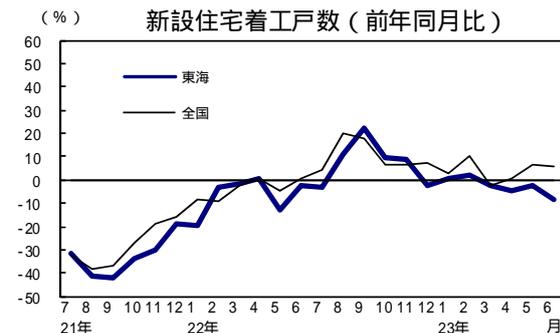
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が前年を下回ったことから、減少している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。

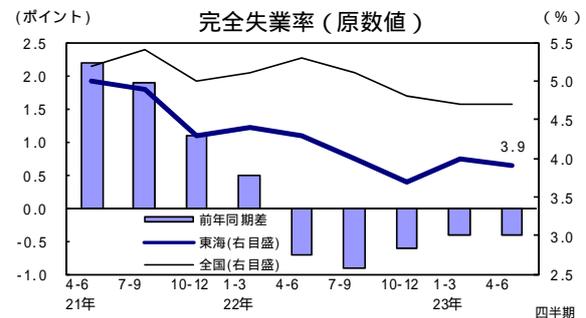
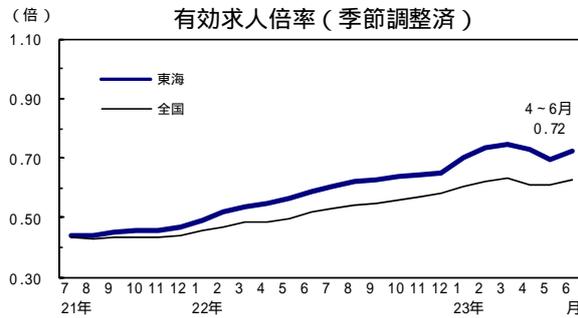


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

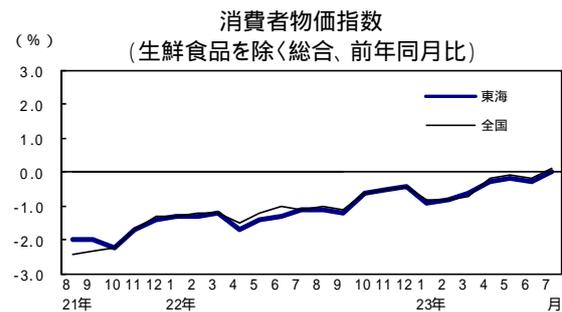
「新卒の未就職者に対する雇用機会が、比較的多くなってきている (人材派遣会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に増加し、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年7-9月	10-12月	23年1-3月	4-6月	23年7月
倒産件数	334	338	424	410	111
(前年比)	7.5	10.3	16.8	25.4	8.3
負債総額	976	560	808	1133	315
(前年比)	36.2	32.8	40.7	93.9	10.3



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・2年間にわたって雇用調整助成金を受給してきた顧問先企業が、休業しなくなっている。また、新たな雇い入れをする顧問先企業も増えてきている (会計事務所)

<先行き>

- ・自動車関連企業による木金への休日変更により、木曜日から日曜日まで忙しく、来客数も多い。この傾向はしばらく続く (百貨店)

景気ウォッチャー調査
(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

